

平成26年度 協働事業振返り調査票

協働事業の名称 男性育児参画促進事業

所属名(団体名) NPO法人ファザーリング・ジャパン

1 事業の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。		
1-2 協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	5	父親の育児支援に特化しているNPOとして千葉市のニーズに合わせた事業とすることができた。
2 目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	5	内容の打ち合わせを丁寧にしていただけたことで、目標の方向性を共有することができた。
3 目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	4	成果がすぐに出る取り組みではないが、アンケートの結果からは概ね評価できると考える。
4 事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	5	連絡を密にとっていただいたことで、柔軟な対応ができた。
総合コメント 千葉市に住む子育て中の父親、これから父親になる男性が「父親になる」ということを多様な面から意識をし、子育てに向かうきっかけづくりができたのではないかと考える。		

2 協働の振返り

振返り項目	振返り結果 1～5を記入	コメント(理由、感想、気づいたことなど)
1-1 協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。		
1-2 協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。	5	NPOのこれまでの活動を生かせる事業であった。
2 協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	5	事前の打ち合わせでしっかりと確認をすることができた。
3 主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	5	それぞれの得意な分野で分担をしながら取り組むことができた。
4 役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	5	協定書づくりの段階で分担が明確になっていたため、役割分担や責任の所在は明確であった。
5 協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等	4	協働事業の取り組みがマスコミからの取材を受けて新聞(全国紙)に取り上げられ、NPOにも多方面から今回の取組みについて問い合わせがあった。千葉市の父親たちが独自に活動をするきっかけづくりにもなった。
総合コメント 双方の得意分野を生かしながら事業を作るという点では、行政とNPOが連携をする「協働事業」は意義のあることだと考える。NPOとしてはこれまでの実績を千葉市のニーズに合わせて共に検討しながら事業作りをすることができたと思う。		

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。